



# ***WILL & CHALLENGE***

RECRUITING GUIDE



株式会社 FBS



# 目指すのは、一流の金融系SE。 道筋は、人材の数だけあっていい。

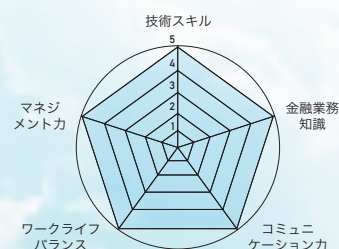
FBSはこれまで、みずほ銀行を中心に、  
様々な金融機関のシステム開発を手がけてきました。  
特に、預金システムの開発や国際系システムの開発といった、  
主要業務の大規模案件で多くの実績を残しています。

こうした社会インフラの創出とも言える重要なプロジェクトでは、  
数多くのSEが一人ひとり重要な役割を果たし、  
長年にわたる信頼関係を築いてきました。  
また金融機関のシステム開発以外でも、  
ビッグデータ分析領域など最先端の技術開発案件で、  
エキスパートのエンジニアとして活躍し、高い評価を得ています。  
つまり、人材こそ、私たちの財産なのです。

私たちは、そんなメンバーを画一的な教育プランで  
一つの色に染めてはならないと考えます。  
どの社員にも多様な個性や価値観があり、  
それがシナジー効果として新たな強みを発揮し弱みを補うチームワークが生まれ、  
人間味のある強い組織が誕生すると考えるからです。

そこで充実した研修を用意して学習意欲をサポートするとともに、  
仕事の中でも成長する機会をふんだんに与え、  
一人ひとりの未来へと飛躍する可能性を大きく引き出しています。  
FBSには、あなたらしさを活かして、一流のSEに至る道があります。  
私たちと一緒に歩んでいきませんか。

## SELF CHECK





# 01

メガバンク史上最大のプロジェクトで、日々、挑戦を続けています。

みずほ銀行は、様々な金融商品や多彩な新サービスを次々と誕生させています。そうした事業戦略を支えていくために情報システムは日々細かなアップデートが行われています。その一方で、多くのアプリケーションやデータベースを刷新させる次期システムの開発が進行中です。メガバンク史上最大と言われる注目プロジェクトです。

FBSはこのプロジェクト全体に大きく関わっているのですが、私も入社1年目から、定期預金の開発に参加しました。詳細設計からプロジェクトに入り、2年目にプログラムのコーディングを、3年目からは結合テストを担当。メガバンクとして最先端のシステムを目指す開発ですから、最新ツールの導入や徹底的な品質の作り込みなど様々な挑戦を重ねてきました。それをクリアするたびに、任されている仕事の重大さを再確認するとともに、自分が着実に成長していることを実感しています。



# 02

得意の英語力とITスキルを駆使して、メガバンクの海外事業を支えています。

IT開発の技術や金融の業務知識以外にも、FBSで活かせるスキルは様々。私のように英語力を発揮できる業務を担うケースもあります。父親の仕事の関係で、子供の頃、米国に住んでいたことから、私は英語を不自由なく使えます。2年目に、みずほ銀行の海外現地法人に勘定系パッケージシステムを導入するプロジェクトに抜擢されたのも、それが理由でしょう。その時は1ヶ月に及ぶ長期出張を3回も繰り返し、現地のスタッフに対して新システムの操作や運用などについての指導を行いました。会話はすべて英語です。導入を完了した後も、メールや電話会議で、現地法人のサポートを続けてきました。

現在は、みずほ銀行の海外事業を支える情報システムの、安定稼働対応を担っています。ニューヨークやロンドン、ミラノなどの現地スタッフと英語によるコミュニケーションは頻繁。ITエンジニアとしてグローバルに活躍できるやりがいを日々実感しています。



# 03

最先端の領域は試行錯誤の連続。乗り越える原動力は開拓者精神です。

FBSの主力事業はみずほ銀行を中心とした金融機関のシステム開発ですが、それ以外にも第二の柱を確立すべく、幾つかの新事業に乗り出しています。その一つにビッグデータ分析事業があります。現在の私はその期待を背負い、大手IT会社と提携したデータサイエンティストプロジェクトに所属しています。チームの中では、それまで手作業で解析用に加工していたデータを自動処理するアプリケーションの開発が担当です。

最先端の開発領域ですから、社内には有識者はいません。そのため開発の方向性に関してはどんな手法が有効か、最新ツールのどの機能が役立つかなど、自ら積極的に新しいテクノロジーの有用性を検証していくことが求められます。だからこそ試行錯誤の末に上手くいった時は、新しい技術領域を開拓したという自負心を得られるのです。

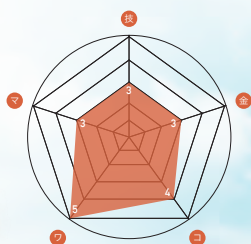




# 04

周囲の暖かい応援と柔軟な制度運用が、ワーキングマザーの心強い味方です。

私は入社3年目の終わりに念願の子供を授かったことが分かりました。喜びの一方でキャリアにブランクができることに不安を感じましたが、上司に妊娠を報告するとすぐにその不安は解消されました。その日から、産休と育休の取得はもちろん、スムーズな復帰に向けての計画がスタートしたのです。残業のない勤務体系も設定してもらいました。一番嬉しいのは、周りの同僚たちの温かい応援です。子供が熱を出したという電話が入ったら、「後を引き受けるから早く駆けつけて」と言ってもらえます。今は朝の7時30分に子供を保育園に預け、日中は仕事に集中し、夜の6時30分に子供を迎えに行く日々です。家事は大変ですが、夫がかなり手伝ってくれます。FBSは元々残業の少ない会社ですが、勤務時間が限られることで以前よりも効率的に仕事を進められるようになりました。子育てと仕事の両方に全力投球し、後に続く女性エンジニアたちのモデルケースになりたいですね。



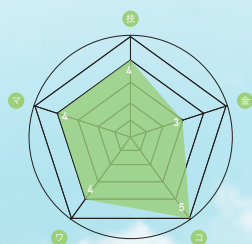
2012年入社  
法経学部総合政策学科卒

本田 晴菜

# 05

自らの存在意義をつくり上げることで、仲間たちとの絆がますます深まります。

私は、就職して納得のいく仕事を続けるためには、第一に周囲と良好な人間関係を築くことが必要であり、チームメンバーが互いに支え合うことで大きな手応えが得られると考えていました。転機は4年目にプロジェクトを移った時です。みずほ銀行の海外事業を支援する国際勘定系システムの開発案件に、途中から参加することになりました。数十名のプロジェクトメンバーは当システムを長く担当している経験豊富な先輩たちばかりです。皆さん良い人で組織体制もしっかりしています。しかし、プロジェクトが長期にわたって続いてきたことで、開発手法やチーム運営に新しい取り組みが欠けていることが目に付きました。そこで、入ったばかりで状況を俯瞰できる私が新風を吹き込もうと考え、現在奮闘中です。このように自らチームに貢献できる役割を考え、そこにやりがいを感じて実践していく。その結果、本当のチームワークが生まれ、仲間から頼りにされる存在になれるのだと思います。



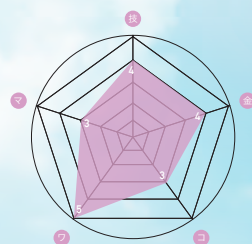
2013年入社  
文学部行動文化学科卒

平野 清貴

# 06

開発したシステムを世に出す時、社会に役立つ仕事ができたと感じます。

大学で数学を学んだ私は、就活に際して授業で学んだプログラミングの面白さを思い出し、IT業界に進もうと考えました。中でもFBSを志望したのは、銀行のシステムという身近な社会インフラ開発を担い、人の役に立つ仕事ができると思ったからです。その思いは今、現実のものとなりました。チームで開発を担当しているのは、みずほ銀行の預金オンラインシステムの一部分です。例えば金融機関に関わる法律の改正があった場合、システム側もアップデートしなければなりません。そのための開発が年に何回かあるのです。完成した新システムへの切り替えは、金融機関のサービスがストップしている週末の夜間に行われます。私たちはこの限られた時間内に現行のシステムに新しいプログラムを移植し、本番稼働確認を行っているのです。予定通りにシステムが稼働したのを見届けた時はいつもホッと、これでまた一つ社会に貢献できる開発をやり遂げたという、大きな達成感があります。



2014年  
理学部数学科卒

小林 説子

あなたの未来を、一緒につくろう。





一流SEとして大きく飛躍するには最初の5年間が重要。FBSは多彩な制度で強力に応援しています。

# TRAINING & DEVELOPMENT

FBS 教育・研修制度

入社から5年間

階層別研修

新入社員集合研修

1年目フォローアップ研修

5年目フォローアップ研修

サブリーダー研修

OJT

2年間 メンター制度

業務知識習得

テクニカルスキル研修

富士通ラーニングメディア主催研修

約250コースより選択

ビジネススキル研修

トーマツイノベーション主催研修

約120コース  
より選択

◇ビジネスライティング  
◇ロジカル・シンキング  
◇ポジティブ・リスニング

◇仕事の進め方の基本  
◇体感型・報連相研修

◇タイムマネジメント  
◇ビジネスストーリーキング

業務知識習得研修

金融基礎銀行業務研修

銀行国際系業務、保険業務等の研修

キャリアカウンセリング(年4回実施/目標&研修内容の確認)

## 新入社員集合研修

### 同期と共に3ヶ月、SEへの第一歩を、じっくりと。

入社と同時に、同期たちとともに企業理念やビジネスマナーを中心とした社会人としての基礎力を学ぶ、基礎研修がスタートします。その後、コンピュータの基礎知識や金融業務知識、開発言語を学ぶ技術研修へと移行。成果発表会を経て、3ヶ月間の新人研修が完了します。



## メンター制度

### 2年間にわたるメンター制度で、PGから初級SEへ。

入社から2年にわたり、一人ひとりの新入社員に先輩社員がメンターとして付きます。メンターは仕事の進め方や社会人としての考え方を気軽にアドバイスしつつ、日常で公私にわたって相談に乗ることで、様々な悩みの解消を手助けします。一方で、直属の上司からは仕事に直接関わる教育を受けていくことになります。



#### メンター／柳澤知輝(入社5年目)

新人は現場に配属された直後は、何をするのか想像もできないものです。私は鈴木さんに対して、何でも質問を投げかけられるテニスの壁打ちの壁になると考えました。そうして少しずつ成長してほしいと考えていましたが、今ではずいぶん建設的な意見も出てくるようになり、嬉しく思っています。

#### メンティー／鈴木綾子(入社2年目)

最初は柳澤さんに質問することに遠慮があったのですが、相談することで疑問や悩みが解消できることが分かってからは、質問もしやすくなり、仕事に対する考え方が明確になりました。近い将来は、私も柳澤さんのように、新人を手助けしてあげられるメンターを務めたいですね。

## キャリア カウンセリング

### カウンセラーと毎年の育成方針や教育計画を策定。

上司がカウンセラーとなって、3ヶ月ごとに将来のキャリア設計についての相談を行います。これによって、カウンセリングを受けた社員は、キャリアプランを明確にイメージできるようになるとともに、それに向けた具体的な研修計画を立案できることになります。

## テクニカルスキル研修 & ビジネススキル研修

### 250の技術研修と120のビジネススキル研修がスタンバイ。

技術を磨きたいという意欲に応えるために、大手研修機関の富士通ラーニングメディアが主催する約250もの技術研修の中から、希望するコースを選んで受講することができます。また、基本情報技術者資格の支援制度として、報奨金制度や外部研修の受講制度があり、先輩たちによる勉強会等が開催されます。一方で、基本的なビジネススキルから専門的な経営の領域まで幅広いスキルを学べる大手研修機関のトーマツイノベーションによる約120の研修メニューも用意されています。

## 業務知識習得研修

### 金融業務のリアルにも触れ、「生きた知識」を活用。

メガバンクと実質上直契約を結んでいることから、FBSのSEはシステムのユーザーである金融機関の社員との交流がふんだんにあります。仕事で習得した金融業務知識を活かせるとともに、日頃からリアルなニーズを知ることでSEとしてのスキル向上を刺激します。金融基礎銀行業務研修や国際系業務・保険業務研修等も、知識習得をバックアップします。

## 6年目以降

### 階層別研修から実務取得支援制度まで、 6年目以降も多彩な教育・研修制度で成長をサポート。

FBSでは向上心のある社員に対する教育支援体制は6年目以降も続きます。例えば、階層別研修やキャリアカウンセリング制度は部長級まで続きます。キャリアがステップアップすることによって、また新たな成長課題が生まれます。その一つひとつを教育・研修体制の活用によってクリアしていくことで、一段と広い視野が開けてくるのです。

# Q & A

## よくある質問と回答から見てくるFBSの特長

就職活動をされる学生の皆さんから、人事に数多く寄せられるご質問にお答えする形で、FBSならではの特長や他のシステム開発企業に対する強みをおさらいしてみました。

Q

エンジニアのキャリアは  
どうなっていくますか？

**A.** FBSの受注する案件は、銀行直系のIT子会社からのものが多いのですが、それはほぼ銀行からの直接発注と同じです。そのため、FBSがシステム開発の全工程に責任を持ってプロジェクトを動かすことになります。SEとして育った社員は、業務スキルを磨き専門性の高い上級SEとして開発現場で輝き続けることも、マネジメントスキルを磨き、プロジェクトマネージャーやコンサルタントとして部門の管理や顧客折衝で活躍するキャリアを選択することも可能です。また、ビッグデータ関連などの先端技術を追求するなど、金融システム以外への転身も考えられます。

Q

お客様に近い立場で  
開発に参加できる魅力とは？

**A.** ズバリ、システム開発のコアとなる上流工程に携われることです。そこでは社会インフラをつくっている実感を強く持つことができるとともに、システム開発における提案力や顧客対応力が磨かれ、金融業界の業務知識も身につけ、生涯にわたって市場価値の高いエンジニアとなることができます。それに対して、下流工程とされるプログラミング製造やテストは、各種自動化ツールなどの進化で、大幅に軽減化されてきています。

Q

文系でもエンジニアとしての  
キャリア形成に支障はありませんか？

**A.** はい、大丈夫です。FBSは優れたSEに育つ条件として、「コミュニケーション力」「論理的思考力」「行動力」が重要であると考えています。技術知識は手厚い教育制度とていねいなOJTで十分に習得が可能ですから、自分を高める成長意欲と挑戦心があれば出身学部は関係ありません。事実、FBSでは約4割の文系出身者がシステム開発の最前線で活躍中です。

## 開発フロー

### 調査・分析

依頼された開発要件について、既存システムへの影響を調査します。また、コストとスケジュールの検討を行います。

### 要件定義

開発要件を正確に把握し、目的・課題を認識します。ソフトウェアの知識だけではなく、金融業務の知識も求められます。

### 基本設計

要件定義書を基に、基本設計書を作成します。画面設計、コード設計、データベース設計、ファイル設計等があります。

### 詳細設計

要件定義書と基本設計書を基に、システムを構成する機能ごとに詳細設計書を作成します。

### プログラム設計

既存プログラムをどう修正するか、新規プログラムをどう作成するかなど、プログラム単位で設計書が作成されます。

### プログラム開発

プログラム設計書を基にプログラミングを行い、1本毎にテストを実施。さらに、機能が正しいことを検証します。

### 結合テスト

プログラム1本単位のテストが終わると、プログラムを組み合わせて求められる機能通りに動かすテストします。

### 総合テスト

開発した全てのプログラムを本番に近い環境でテストを行い、全体的な機能に不具合が無いかを最終確認します。

### ユーザー受入テスト

お客様が実際に開発したシステムを使い、要求した機能が網羅されているかどうか、確認するテストを実施します。

### 本番C/O(カットオーバー)

登録作業等を実施し、カットオーバーの日を迎えます。最後に保守・運用部門に引継が行われます。

## 【会社概要】

正 式 社 名	株式会社FBS(FBS Corporation)
設 立	2011年(平成23年)2月2日
代表取締役社長	平本 謹一
資 本 金	1億円
事 業 内 容	銀行システム開発、クレジットシステム開発、ヘルスケアシステム開発、ビッグデータ分析開発、生損保系システム開発等
所 在 地	〒101-0053 東京都千代田区神田美土代町7番地 神田第二中央ビル6階 TEL:03-5577-6661(代表) FAX:05-5577-6520

# ENTRY

エントリー詳細は  
ホームページをご覧ください。  
スマートフォンからもアクセスできます。

<http://www.f-b-s.jp/>

